

施策評価表

施策番号	- - 51	重点プラン	-	施策名	コミュニティ施設の整備	所管課	市民活動推進課	関係課			
------	--------	-------	---	-----	-------------	-----	---------	-----	--	--	--

1. 施策の概要

対象	市内在住・在勤者
目的	コミュニティセンターや地域センターなどをコミュニティ活動の拠点として活用します。
現状 (計画策定時)	コミュニティ施設設置基本方針及び地域センター9地区9館構想に基づき、現在、コミュニティセンター4館、地域センター6館が設置されています。施設の管理運営は、自治会などで組織した管理協力委員会が行っており、自治会や市民団体などの活動拠点として利用されています。また、計画的な施設整備を行なうため、経年劣化等による施設点検や整備計画の策定を進めています。
課題 (計画策定時)	コミュニティ施設の利用状況にはばらつきがあり、コミュニティ活動の拠点として、更に活性化を目指す必要があります。また、施設によっては経年劣化に伴う機能低下が見られ、長期修繕計画による整備基準を定め、適切な施設維持管理を行なう必要があります。

2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画 指標 に基づく	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値 に対する進捗率 (%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計 画 指 標	コミュニティセンターの利用 人数	人	目標値			57000.0	63000.0			79200.0	95040.0	58.4
			実績値	67506.0	51709.0	46272.0						
補 足 指 標	地域センター利用人数	人	目標値			68500.0	69000.0			70800.0	84960.0	88.9
			実績値	60157.0	68149.0	62962.0						
				目標値								
				実績値								
				目標値								
				実績値								

施策指標の達成度に関する評価

A 目標をほぼ達成する	B 目標をやや下回る	C 目標を下回る	D 目標を大幅に下回る	B	東日本大震災発生後、施設の利用時間を制限した結果、利用者数の減少となった。
-------------	------------	----------	-------------	---	---------------------------------------

3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組 番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業 評価結果	事業費						今後の方向性					
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・ 解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事 業の妥 当性	優先度	
								総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)		1次 評価	2次 評価
	地域及び市民の 活動拠点として のコミュニティ施 設の活用	コミュニティセンター4館、コミュニティセンター6館で、年間10,284回109,234人の利用がありました。前年度と比較すると若干減少しています。また、施設利用の団体登録は前年度と比較して77団体増えました。	震災などの影響があったものの、来館者数が伸び悩んでおり、利用促進策の検討が必要です。	コミュニティ施設管理運営	市民活動推進課		改善して継続	60366	997	59369	56707	808	55899	64355	991	63364		B	B
	コミュニティ施設 の維持管理と充 実	経年劣化した新倉北地域センター屋根の防水工事を実施し、施設の維持管理に努めました。	長期修繕計画に基づく計画的な修繕の実施にあたり、各年度の予算措置が課題となります。	コミュニティ施設整備	市民活動推進課		改善して継続	15432	0	15432	19204		19204	14786	14786	0		A	B
										0			0						
										0			0						
										0			0						
										0			0						
										0			0						
										0			0						

4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	A 東日本大震災の影響を受け、一時閉館や祭りごとの自粛ムード、計画停電による不安などから、施設利用者が減少した期間がありました。しかし、次第に地域内での人との繋がりを作る機運が高まったことにより、前年度に比べ利用者は若干減少したものの、地域コミュニティの中枢として、コミュニティ施設の必要性が再認識されたものと考えます。
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	A 地域住民や利用者などで構成された各施設の管理協力委員会に管理業務を委託し、利用者の立場に立った施設運営を行っています。そのため利用者からの苦情も少なく、利用しやすい環境を整えています。

5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等) [1次評価(所管課)]

1次 評価	市民活動の拠点として利用団体が活発に活動することができるよう施設整備を行っていく。	対象者の方向性 (増減)(%)	基本目標に 対する貢献度
		105	A

6. 今後の施策の方向性 [2次評価(行政評価委員会)]

2次 評価	地域特性に合った管理運営を更に進め、地域コミュニティの拠点としての役割を果たし、利用者数、満足度の向上に努めること。	サービス水準		コスト
		現状	方向性(目標水準)	方向性
		A	(A)	

7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	
A		

施策評価表

施策番号	- - 56	重点プラン	-	施策名	湧水・緑地の保全と再生	所管課	環境課	関係課	都市整備課		
------	--------	-------	---	-----	-------------	-----	-----	-----	-------	--	--

1. 施策の概要

対象	緑化まつり来場者及び緑化体験教室参加者、市民緑地等の利用者及び維持管理する市民ボランティア 保存樹木・保全地区の所有者
目的	次世代に伝えるべき財産である湧水と緑地などの自然環境を、守り、育て、活かし、自然と調和のとれたまちにします。
現状 (計画 策定時)	本市の自然環境の特徴は、湧水や斜面林、屋敷林、社寺林などの緑で、この特徴が市民の水と緑に関する関心を高めています。市民意識調査でも、「公園・緑地が整備されている」の満足度は63.0%、「自然に恵まれている」の満足度は61.7%であり、他の施策に比べ高くなっています。 また、平成15年に策定した環境基本条例に基づき、これまでに環境基本計画や緑地保全計画を策定し、緑地の保全に関するさまざまな施策を実施しています。 現在、本市には、7箇所の市民緑地(ふれあいの森)があり、市民との協働による維持管理を進めるなど、環境保全上重要な役割を担う湧水・緑地の保全・育成・活用に努めています。市内の緑地面積は、都市化が進むにつれて、年々減少しています。
課題 (計画 策定時)	湧水や緑地などの自然環境の保全意識の向上や継承する次世代の人材が育っていません。また、緑地を保全、増加させるためには、公有地(緑地)の整備が求められています。

2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画 策定時	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値 に対する進捗率 (%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計 画 策 定 時	緑地・水辺空間の整備面積	㎡	目標値			15061.0	15061.0			14520.0	22965.0	94.0
			実績値	13524.0	13363.0	13646.0						
	市民協働事業従事者数	人	目標値			1000.0	1000.0			1200.0	1400.0	83.3
補 足 指 標	生産緑地面積	ha	目標値			44.0	44.9			44.0	44.0	101.8
			実績値	44.0	44.0	44.8						
	目標値											
施策指標の達成度に関する評価				理由								
A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る				B 緑地・水辺空間の整備面積は、目標をやや下回るものの概ね順調に推移している。生産緑地については面積の維持に目標を置いているが、23年度に追加指定があり目標値を上回っている。								

3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組 番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業 評価結果	事業費									今後の方向性				
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・ 解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事 業の妥 当性	優先度			
								総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)		1次 評価	2次 評価		
	自然環境を守る 仕組みづくり	市民との協働により、市民緑地の整備・維持管理を行った。保全地区・保存樹木については、補助金を支出し、保全を図った。また、緊急雇用創出基金事業補助金を活用し、市内の緑被率の実態調査を実施して、市内の緑の把握に努めた。	市内に残存する緑地や斜面林について、緑地保全計画に基づき保全策を検討しているが、民有地が多く、費用の問題や維持管理の担い手の問題など、課題が多い。	緑化普及啓発活動	環境課		改善して継続	1,572	208	1,364	770		770	1,346	200	1,146		A	A		
				緑化助成金	環境課		改善して継続	5,949	0	5,949	5,527		5,527	5,948	0	5,948			B	B	
				湧水・緑地保全	都市整備課		改善して継続	8,522	0	8,522	7,763		7,763	8,439	0	8,439			B	B	
				湧水・緑地保全(緑の実態調査)	都市整備課	H23	終了(廃止・休止)	0	0	0	4,694	4,694	0	0	0	0	0				
	自然環境を育て る仕組みづくり	まちづくり条例の規定による開発行為の際、緑化の推進を図った。また、緑のカーテン教室の開催し、緑に親しむ機会を設けた。	まちづくり条例の対象外の開発においては、緑化の推進が図れていない。	湧水・緑地保全(重複)	都市整備課					0			0								
	自然環境を活か す仕組みづくり	市民緑地について、市民との協働により維持管理を行うとともに、その緑地を活用し、環境教育や環境学習の機会を設け、自然環境保全意識の向上と次世代の人材育成に努めた。	環境教育や環境学習を実施しているが、次世代の人材育成に直接結びついていない。	湧水・緑地保全(重複)	都市整備課					0			0								
	公有地(緑地)の 整備	市民協働により、午王山特別緑地保全地区の整備を行い、また隣接する斜面林についても所有者から借り上げて整備を行った。	午王山特別緑地保全地区については、整備を進めているものの、常時一般開放ができる状態には至っていない。	湧水・緑地保全(重複)	都市整備課					0			0								
				緑地整備	都市整備課		このまま継続	168	0	168	2,205		2,205	42	0	42			C	C	

施策評価表

施策番号	- - 56	重点プラン	-	施策名	湧水・緑地の保全と再生	所管課	環境課	関係課	都市整備課														
計画的な生産緑地の追加指定	平成4年度に指定した生産緑地について、指定地区全部の現地調査を行った。また、生産緑地の表示杭が破損していることから、新しい杭に交換した。			生産緑地地区現地調査	都市整備課	H23	終了(廃止・休止)	0	0	0	1,846	1,846	0	0	0	0	0	0	0	0			
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	B マクロ的に見ると、開発の進行により、市内の緑地は減少傾向にあるが、中でも特に保全すべき緑地や湧水に関しては、市民協働の進展により、保全が進んできている。その他自然環境の保全に関しては、まちづくり条例の規制により保全を図っているが、公共事業を含め開発と自然環境との調和が課題になっている。
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	B ここ数年、広く一般に開放しているふれあいの森を各地域に開設していること、またそれ以外の緑地に対しても補助金等により保全が図られているため、近隣他市と比較しても同等の水準にあると思われる。

5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)【1次評価(所管課)】

1次評価	緑地の保全に関しては、市民協働をさらに推し進め、市民緑地の拡大を図る必要がある。また、民有地が多い緑地の公有地化は、今後の重要な検討課題である。保全地区・保存樹木の補助金に関しては、対象者の理解を得ながら、補助対象や補助単価の見直しが必要であると考えます。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	A

6. 今後の施策の方向性【2次評価(行政評価委員会)】

2次評価	一次評価のとおり	サービス水準		コスト
		現状	方向性(目標水準)	方向性
		B	(B)	

7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状 B	方向性	方向性

施策評価表

施策番号	- - 57	重点プラン	施策名	水環境の保全
------	--------	-------	-----	--------

所管課	環境課	関係課	
-----	-----	-----	--

1. 施策の概要

対象	環境公害を受けている市民
目的	市民が衛生的で水の恵み豊かな生活を送れるよう、水環境を安全に保全します。
現状 (計画策定時)	本市は、白子川、谷中川、越戸川、新河岸川、荒川といった河川が縦横に流れており、河川水質事故などの公害に関する苦情がたびたび発生しています。苦情件数は、近隣市の平均より多くなっていますが、水質事故発生時には、水質事故を招いた原因者に対し、適宜指導を行い、水質の改善に努めています。また、道路のアスファルト舗装を進めたことで、雨水が地下に浸透せず、河川に流入している状況が起っています。
課題 (計画策定時)	地下水の保全に関する関心が高まっている一方で、浄化槽の管理が不十分なことから、今後、雨水の利用を含め、河川の水質の改善及び保全のための取組が必要です。

2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画 指標 に基づく	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値 に対する進捗率 (%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計	市内3河川のBOD値	ppm	年度	目標値		2.0	2.0			1.0	1.0	1390.0
				実績値	3.2	2.2	13.9					
補	雨水小型貯水槽設置数	箇所	年度	目標値		-	10.0			40.0	90.0	0.0
				実績値	-	-	0.0					

施策指標の達成度に関する評価

A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る

理由: 一部の浄化槽設置者の維持管理が不十分であったことが影響し、7月に実施した水質調査において越戸川のBOD値が環境基準値を大きく上回ったため、市内3河川のBOD値の実績値(平均値)が高くなってしまった。

3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組 番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業 評価結果	事業費						今後の方向性					
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・ 解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事 業の妥 当性	優先度	
								総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)		1次 評価	2次 評価
	浄化槽管理者への適正管理の呼びかけ	浄化槽実態調査の結果に基づいた浄化槽設置者(管理者)への指導啓発を行った。	浄化槽設置者の、法定検査の認識不足等により浄化槽の適正な維持管理が行われていない事例がある。	水環境保全業務	環境課		改善して継続	2,100	0	2,100	2,072	0	2,072	2,074	0	2,074		B	B
	河川の水質保全	市内の河川について、水質・汚濁負荷量・水生生物の生息数を継続的に把握することにより、河川環境を監視するとともに改善施策、意識啓発の基礎資料とした。	一部の浄化槽設置者において適正な維持管理が行われていなかったため、一部河川でBOD値が環境基準値を上回るなどの水質汚濁が発生した。	水環境保全業務(重複)	環境課			0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	雨水の有効利用の促進	平成24年度から実施	-	水環境保全業務(雨水小型貯水槽設置)	環境課		-	0	0	0	0	0	0	500	0	500	新規	A	A

4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	B 公共下水道整備の進捗に伴い浄化槽設置基数は減少しているが、一部の浄化槽設置者において適正な維持管理が行われず一部河川に水質汚濁が発生する事例が年に数件起きている。
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	B 市内の河川について、水質・汚濁負荷量、水生生物の生息状況等を継続的に把握するために、“定期水質測定”“水生生物調査”など、他市の調査項目と同じ水準で実施している。また、その調査結果については和光市HPに掲載している。浄化槽の適正管理については、浄化槽法に基づく指導事務を知事の特例条例により権限の移譲を受け、浄化槽管理者に対する指導の強化に努めている

5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)[1次評価(所管課)]

1次評価	河川の水質改善を図るため、引き続き浄化槽設置者への適正管理に係る指導及びPRを行う。また、都市化の影響により道路がアスファルトで覆われたために、雨水の浸透能力がなくなり、ゲリラ豪雨などによる“都市型洪水”が発生することから、雨水の貯留・浸透及び利用に対する新たな取組として、雨水小型貯水槽設置補助制度を実施し、適正な水循環に努める。	対象者の方向性 (増減)(%)	基本目標に 対する貢献度
		100	B

6. 今後の施策の方向性[2次評価(行政評価委員会)]

2次評価	平成24年度から実施する雨水貯水槽設置補助金について、費用対効果等を検証しながら、水環境の保全にふさわしい取組となるよう今後の方向性を定めること。	サービス水準	コスト
		現状	方向性(目標水準)
		B	(B)

7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	(コスト)雨水貯水槽設置補助金の助成対象にマンションを加え、その事業費を増額分とする。
B		